参考資料１

令和元年度　碧南市病院事業報告書

１　概況

(1) 総括事項

ア　業務状況

碧南市民病院は開院３１周年を迎え、この間、地域の二次救急医療機関として、また市民の生命と健康を守る地域の中核的な病院として役割を果たすべく尽力してまいりました。

今年度は、老朽化した入院病棟について、入院患者様の生活環境と職員の職場環境を改善するために改修計画の策定に取り組んでまいりましたが、９月に厚生労働省から公表された「地域医療構想の実現に向けて」において、再検証要請対象医療機関の指定を受けたため、病棟改修計画を一時中断し、再編統合に関する具体的対応方針について再検証を行っており、令和２年９月までに圏域の地域医療構想推進委員会の中で結論を得ることとなっております。また、冬期に発生した新型コロナウィルス感染症拡大の影響から、外来患者数、入院患者数が減少しており、今後の病院事業への影響を懸念しております。

事業運営にあたっては、病院長のもと、「患者数の増加」、「地域との交流」、「新しいことを始める」の３つを院内目標に掲げて、病院の価値を高めるため、出張体験講座や職員研修の実施等の様々な取り組みを行いました。また、施設整備に係る計画の見直しや医療機器の購入抑制、薬品診療材料の価格交渉等の経費削減に努め、医師の待遇改善としてインセンティブ手当の実施を行いました。

医師の確保対策としましては近隣医大の医局訪問を積極的に行っており、研修医については修学資金条例に基づき修学生を募集し、３名の医学生を確保したほか、医科大学の訪問も積極的に進めております。

年度末現在の医師数は前年度末より１人増の４２人となり、医業収益は対前年度比４千４百万円余の改善となりました。入院患者数は５１２人の減少となりましたが、入院患者一人当たりの診療単価は対前年度比で５２１円増加の４６，８３１円であったため、入院収益は対前年度比２千７百万円余の増加となりました。

医業費用では医師のインセンティブ手当に伴う給与費の増加、消費税の増税に伴う雑支出の増加等により、対前年度比７千９百万円余の悪化となりました。令和元年度の当期純損失は１０億１千８百万円余となり、対前年度比６千４百万円余の改

善となりました。

イ　患者数

入院患者（退院含む）は、８３，６１６人（１日平均２２８．５人）で昨年の８４，１２８人より５１２人の減、また、外来患者数（時間外含む）は、１６１，４３９人（１日平均６６７．１人）で昨年の１６５，６５５人より４，２１６人の減となりました。

ウ　収益的収支

病院事業収益は７，０４８，３６６，０１４円、病院事業費用は８，０６７，１４８，５５２円で、当期純損失は１，０１８，７８２，５３８円となりました。

エ　資本的収支

資本的収入は１，１１８，２１６，０００円、資本的支出は９３６，８０２，０３５円で、差引額は３６２，９８９，６９８円の収入超過でした。

収入については、一般会計からの繰入として出資金３７４，７３６，０００円、企業債２４０，６００，０００円、長期定期預金満期による回収金等５０２，８８０，０００円を受け入れました。

支出については、舗装改修工事、医療ガス設備改修工事等の建設費として１２９，０８２，６００円、生体情報モニタ関連機器等の機器備品を購入するための資産購入費として１２５，１１５，１０５円、ほかに企業債償還金（元金）として、６５８，９６４，３３０円、投資として医師、看護師等修学資金貸付金２３，６４０，０００円を執行しました。

以上が令和元年度の決算概要でありますが、今後とも医療体制の充実、医療の質の向上を図るとともに、サービスの向上と経営の健全化に努めるよう一層努力してまいります。